



学校法人 才教学園 才教学園小学校・中学校

心に刻んだ防災の大切さ

被災地訪問と避難所作りの体験を通して



外の世界とつながる STEAM 教育

才教学園は少人数教育の経験を基に、他者と協働しながら課題解決力や想像力を身に付ける「STEAM 教育」を2021年度より行っています。従来からの探究活動に「地域社会・企業など他者と協働すること」「テクノロジーの活用」「結果や経過をアウトプットすること」を新たな活動の要素に加えて、STEAM 活動としています。

1、2年生からデジタルデバイスに親しむため iPad を使った学習を取り入れ、プログラミング学習が始まります。2年生による自作の商品を販売する「さいきょう商店街」は名物イベント。3年生では体育の授業においても自分自身で体の動きを客観分析するためにも活用されています。4年生からは STEAM 型プロジェクト学習として外部とコラボする活動が多くなり、各教科の学びと研修旅行での体験などを結びつけ、「防災」「平和」などの大きなテーマに年間を通して取り組みます。

防災について学ぶ6年生は、2024年6月に研修旅行として東日本大震災の被災地、宮城県石巻市を訪れました。石巻ボランティア協会の方に市内を案内していただき、被災された方からも話をうかがいました。12月には、国際ボランティア学生協会 IVUSA の皆さんと避難所の設営を体験。東北旅行での経験もいかし、一人ひとりが災害時におけるおもいやりの心と対応力を身につけました。

感動体験を大切にしたい 3 大行事

才教学園では「感動体験」を大切にしています。それを象徴する3大行事として「体育祭」「さいきょう祭」「プレゼンテーションコンテスト」があります。何ヶ月も前からたくさんの練習や準備を積み重ね、一人ひとりが最高の結果を残せるように、幾つもの壁を乗り越えながら本番を迎えます。最高のパフォーマンスを発揮した達成感や沸き上がる感動が精神の成長につながっています。

学校法人 才教学園 才教学園小学校・中学校 HP



福祉教育のポイント

石巻市への訪問は、コロナなどで中断もありましたが、震災の3年後にあたる2014年度から続いています。最初のころは、街のいたるところに震災の爪痕が残っていました。今は石巻の復興の様子を見る旅にもなっています。

長野市立 長沼小学校

安心して暮らせる長沼に

地域の方といっしょに学ぼう! 考えよう! 行動しよう!



10月13日は「長沼防災の日」教訓を語り継ぐ

長野市長沼地区は、「戌の満水」と呼ばれる1742年(享保2年)の大洪水をはじめ、何度も洪水にあり、昭和16年には長沼地震も起き、校舎が壊れるといった歴史のなかで、長沼の人々は協力しあい復興してきました。令和元年の台風19号災害でも千曲川堤防の決壊により、長沼小学校も含め長沼地区は広範囲にわたり浸水被害を受けました。災害以来、長沼小学校では10月13日を「長沼防災の日」と定め、経験したことを忘れずに、災害に負けない未来をつくっていくために、減災・防災学習に取り組んでいます。

学年ごとに「減災・防災学習」の成果を発表

2024年の「長沼防災の日」は、各学年で防災について学んだことを発表しました。

1・2年生は、地区にある妙笑寺の境内には、これまでの水害で浸水した時の水位を記録する「千曲川大洪水水位標」があり、台風19号での水位などを確認しました。たくさんの方が助けてくれたことや、地域の人も助け合っていたことを知りました。

3年生は「長沼でどんなことが起きたのか、自分が住む地域が5年前にどんな状態になったのかをその時の写真などから調べたり、家族や地域の方にインタビューをしたりして調べました。

4年生は、洪水時に避難した地域の施設に行き、避難生活の問題点や必要なものを考えたり、普段からの備えや災害時にあると便利なものなどを調べ、避難と避難所の生活について発表しました。

5年生は地震が起こる仕組みなどを調べ、長野県の自然災害への備えについて発表しました。

6年生は、「減災・防災の知識と現状」と「減災のための治水対策」を発表。長沼は災害が多く、洪水の原因は何かを知り、しっかり対策して二度と災害で大きな被害が出ないように、減災のための対策の必要性や学びの意味について低学年にもわかりやすく伝えました。

長野市立 長沼小学校 HP



福祉教育のポイント

自分たちの住んでいるまちの歴史を知ることは、昔からの大切なメッセージを受け取ることになります。みんなが安心して暮らせるような工夫や協力しあう方法など、これからも地域の方といっしょに学んで、伝えていきたいと思います。